

〔国際学研究フォーラム講演録 2〕

2024年1月12日（金）

震災と文学－仙台短編文学賞の7年から

講演者：土方 正志
（出版社荒蝦夷代表、作家・編集者）

報告者：高村 峰生
（関西学院大学国際学部教授）

著述家・ジャーナリストであり、仙台で出版業、編集業、さらに古書店を営む土方正志氏にご講演をいただいた。前半では、土方氏の半生をたどりながら、東北学院大学卒業後、東京に出てからライターや編集者としてお仕事をされたなかで、どのように震災報道とかわるようになっていったかをお話しされた。雲仙・普賢岳噴火での取材をきっかけに自然災害をとくに任されるライターになり、1995年の阪神淡路大震災後の神戸では長い時間をかけて取材をし、それを二冊の本にまとめられたという。講演の後半では、21世紀になって仙台で出版業、編集業を営むようになった経緯をご説明されたあと、震災について書いてきたご自身が東日本大震災の被災者となった経験を語られた。そのうえで、創設者の一人としてご尽力された仙台短編文学賞についてお話しされた。この短編賞は震災についての作品を募集しているわけではないが、自然と東日本大震災について書いた作品が多く集まってきたという。フロアからは熱心な質問が寄せられ、能登半島地震で始まった本年において、震災とその言語的表現の可能性を考える意義深い講演会となった。